

## 第6回選定委員会議事概要

(第17回物質・生命科学研究施設利用委員会との合同開催)

- 1 日時：平成25年8月22日(水) 15:00～17:40
- 2 場所：TKP ガーデンシティ竹橋 ホール10E
- 3 出席者：[委員] 福山秀敏(委員長)、赤井俊雄、秋光純、旭耕一郎、片岡幹雄、金谷利治、亀井信一、岸本直樹、佐藤卓、柴山充弘、杉山正明、西島和三、林眞琴  
[一般財団法人総合科学研究機構(以下、CROSSと略称)] 藤井保彦、佐藤淳一  
[オブザーバー：J-PARCセンター] 加藤崇、新井正敏、瀬戸秀紀  
[オブザーバー：CROSS] 箱田正男、佐藤正俊、福嶋喜章、鈴木淳市、山下利之  
[事務局] 佐藤淳一(兼)、太田淳子  
(以上、敬称略)

### 4 議事次第：

1. 開 会
  - (1) 合同会議についての説明 (J&C)
  - (2) 委員の紹介と委員長の互選、委員長代理の指名 (C)
  - (3) 前回議事録の確認 (J, C)
2. 報告事項
  - (1) J-PARC ハドロン施設事故の報告 (J&C)
  - (2) MLF の現状報告 (J&C)
  - (3) 分科会委員について (J&C)
  - (4) ミュオン課題審査部会設置要項の改訂について (J)
  - (5) 平成25年度下期(2013B期) 課題申請状況の報告 (J&C)
  - (6) 中性子ビームライン中間評価について (J&C)
3. 審議事項
  - (1) 平成26年度上期(2014A期) 及び通年(2014年度) 課題公募・審査方針について (J, C)
4. その他
  - (1) 意見交換 (J&C)
  - (2) 次回の開催「2013年10月28日(月) 13:00～17:00」 (J&C)
5. 閉 会

但し、選定委員会の議事はC、物質・生命科学研究施設利用委員会(以下、MLF施設利用委員会という。)の議事はJと記載した。

審議は両委員会で明確に分けて行われ、この議事録は上記議事次第に(C)及び(J,C ; 同一議事題名だが分けて審議) (J&C ; 同一議事題名で合同での説明、意見交換)と記載した議事のみを対象としている。

## 5 配布資料リスト

### 合同会議進行表

- J&C 資料 1 MLF 施設利用委員会/選定委員会 委員名簿
- J&C 資料 2 課題審査体制図
- J 資料 3-1 第 16 回物質・生命科学実験施設利用委員会議事録(案)
- C 資料 3-2 第 5 回選定委員会議事概要 (案)
- C 資料 3-3\_1 選定委員会メール審議結果報告
- C 資料 3-3-2 中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会委員名簿
- C 資料 3-3-3 中性子実験装置部会/専用施設審査委員会委員名簿
- J&C 資料 4-1 J - PARC ハドロン実験施設事故後の対応状況、今後について
- J&C 資料 4-2 MLF の現状報告
- J&C 資料 5-1-1 分科会大分類、小分類表
- J&C 資料 5-1-2 (旧) 分科会大分類、小分類表
- J&C 資料 5-2 中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会分科会委員名簿
- J 資料 6-1 ミュオン課題審査部会設置要項新旧対照表
- J 資料 6-2 ミュオン課題審査部会及び分科会委員名簿
- J&C 資料 7-1 MLF 課題申請件数の推移
- J&C 資料 7-2-1 2013B 期課題申請状況
- J&C 資料 7-2-2 2013A 期課題申請状況
- J&C 資料 7-3 2013B 期中性子申請課題 BL 毎分科会・研究分野分類
- J&C 資料 7-4 2013B 期ミュオン申請課題 BL 毎分科会・研究分野分類
- J&C 資料 8-1 中性子ビームライン中間評価の概要
- J&C 資料 8-2 中間評価スケジュール
- J 資料 8-3-1 中性子実験装置部会分科会委員名簿
- C 資料 8-3-2 専用施設審査委員会分科会委員名簿
- J&C 資料 8-4-1 平成 25 年度第 1 回中性子実験装置部会議事録(案)
- J&C 資料 8-4-2 第 2 回専用施設審査委員会議事概要(案)
- J&C 資料 9-1 2014A 期課題公募及び課題審査方針
- J&C 資料 9-2 2014A 期課題審査スケジュール

### 参考資料

- 1 設置者と登録機関の役割
- 2 中性子線共用施設の利用研究課題選定に関する基本的考え方 23. 7. 13 改正
- 3 中性子線専用施設の設置計画の選定に関する基本的考え方 23. 7. 13 改正
- 4 CROSS 東海パンフレット

## 6 議 事

### 1. 開会

瀬戸 MLF 副ディビジョン長が資料 1, 2 に基づき、MLF 施設利用委員会/選定委員会・合同委員会の課題審査における位置づけと審議の進め方について説明した。次に佐藤 CROSS 利用推進部長が選定委員会の出席者が定足数に達しており選定委員会が成立するとの開会宣言をし、さらに瀬戸 MLF 副ディビジョン長が今回の委員会開催の目的について説明した。

また今回は 4 月より新メンバーになった最初の選定委員会なので委員長の互選が行われ、福山委員が選出され、委員長代理には福山委員長より金谷委員が指名された。

さらに福山委員長より第 5 回選定委員会議事概要（案）（資料 3-2）、及び選定委員会メール審議結果（資料 3-3-1, 3-3-2, 3-3-3）の確認の要請があった。

[結果]

第 5 回選定委員会議事概要（案）及びメール審議結果は承認された。

### 2. 報告事項

#### (1) J-PARC ハドロン施設事故の報告

池田 J-PARC センター長が資料 4-1 に従って J-PARC ハドロン実験施設事故後の対応状況と今後について説明した。

質問：事故原因のサイエンスレベルでの説明はまだできていないということか？

回答：ほとんど説明できたと思っているが、まだ実際に金ターゲットの損傷状態を見ることができていない。

質問：今後の対応の立ち位置は？ このような事故は起こり得るということを前提として、起こった後の対応を強化するのか？ 或はこのような事故を絶対起こさないようにするのか？

回答：100%安全ということはない、人は過ちを起こすものである、という前提で、そのための対策としてできることをすべてするという立ち位置である。

質問：原因究明が完全でなくても、対応策を明確にすることで施設を再稼働に向けて進めるのか？

回答：そうである。事故の原因究明を全力で行っているが 100%究明できるわけではないし、今後も事故は起こり得るという立場で考えている。

意見：起こり得る事故原因の想定範囲を、サイエンス的発想で限定して考えていないか。放射線障害防止法の申請の時のように、人為的なことや地震などの災害等も含めてあらゆる場合を想定して対策を十分に行うよう検討していただきたい。

意見：今まで安全ディビジョンは他のディビジョンと対等の立場であったため権限を持っていなかったが、今後は一つ上に位置してかつ安全統括副センター長を置くということなので、権限を持たせて安全管理を徹底するよう検討して欲しい。

意見：7 月 19 日に T2K 実験のプレス発表を行ったが、外部の人々の感情を考慮し、時期を変えたほうがよかったのではないか。

回答：プレス発表は、国際競争の中、大きな物理発見となる T2K 実験成果に関する国際会議の講演時間に合わせて KEK 及び大学と相談し J-PARC センターの判断及び責任で行った。そういう考えもあるということに驚いているが、真摯に受け止めた。

#### (2) MLF の現状報告

新井 MLF ディビジョン長が資料 4-2 に従って MLF の現状について説明した。

(3) 分科会委員について

瀬戸 MLF 副ディビジョン長が資料 5-1-1, 5-1-2, 5-2 に従って中性子分科会の再構成と分科会委員について説明した。

(5) 平成 25 年度下期 (2013B 期) 課題申請状況の報告

瀬戸 MLF 副ディビジョン長が資料 7-1, 7-2-1, 7-2-2, 7-3, 7-4 に従って 2013B 期の課題申請状況について説明した。

コメント: 資料 7-3 及び 7-4 は前回の MLF 施設利用委員会/選定委員会合同会議での意見を取り入れたものである。

(6) 中性子ビームライン中間評価について

二川 MLF 副ディビジョン長が資料 8-1, 8-2, 8-3-1, 8-3-2, 8-4-1, 8-4-2 に従って中性子ビームラインの中間評価について説明した。

### 3. 審議事項

(1) 平成 26 年度上期 (2014A 期) 及び通年 (2014 年度) 課題公募・審査方針について

1-1. 元素戦略課題の申請について

最初に、瀬戸 MLF 副ディビジョン長が資料 9-1 の(1)に従って元素戦略課題の公募方針について説明した。ここで審議すべき事項は、①MLF ビームライン全体について、一般の研究者が一般利用枠に元素戦略課題を、タグをつけて申請する事の是非、②共用ビームラインについて、拠点を募集対象とする元素戦略課題枠にビームタイムの残りがあった場合、それを一般課題枠に申請された元素戦略課題に優先的に回すことの是非であった。

①について

質問：元素戦略拠点の研究者も一般課題枠に元素戦略課題を申請できるのか？

回答：拠点から元素戦略枠に申請する課題とは別のテーマなら申請できる。

質問：拠点以外の研究者が一般課題枠に申請するメリットは？

回答：施設側にとっては、元素戦略に貢献していることを示すことができる。しかし申請者にとっては一般利用枠に元素戦略のタグをつけて申請しても優先されるわけではないので、必ずしも直接的なメリットはない。

質問：一般の利用者が元素戦略課題を実施したい場合、拠点の中に入ってそこから申請するということとはできないのか。

回答：拠点のメンバーの入れ替わりはあるが、元素戦略のテーマがあるからすぐに拠点に入れるというわけではない。

質問：2012 年度の一般課題枠に元素戦略に関係した課題の申請はあったのか？

回答：あった。

[結果]

一般課題枠に元素戦略課題を、タグをつけて申請することが承認された。

## ②について

意見：元素戦略課題枠として設けたのだから、一般の元素戦略課題に充てるのがよいのではないか。

質問：一般枠に申請された課題を元素戦略枠に移す場合、ビームタイム配分の手順が複雑ではないか？

回答：一覧表ではスコア順に課題が並んでいるので、移動した課題を除いて上から自動的に埋めていけばよく、手続き的には問題ない。

意見：元素戦略のタグがついている課題をどの程度優先するのか？ 一般利用枠のボーダー以下のスコアでも、元素戦略枠で採択するというのはおかしくないのか？

意見：多少スコアが低い程度なら申請内容を検討したうえで優先的に採択してもいいのではないか。

意見：タグを付けるのは申請者であるので、優先するということになるのと皆がタグをつけてしまうことにならないか。

### [結果]

一般課題枠に申請された元素戦略課題を元素戦略枠に回す、その場合の採否の基準は他の一般課題と同等とする、それでも元素戦略枠が余った場合は一般課題を回すことが承認された。

## 1-2. 連携利用について

次に、藤井 CROSS 東海事業センター長が資料 9-1 の(2)に従って放射光 SPring-8、計算機Kとの連携利用課題の公募方針について説明した。

意見：出発点としては共用法 3 施設の連携利用でよいかもしれないが、ユーザーの立場も考え、PF やその他の施設も含めたもっと広い連携も考えたらどうか。

意見：物構研では中性子、放射光 (PF)、ミュオン、陽電子の 4 つの物構研施設を利用した実効的なマルチプローブな施設として物構研独自で実行してみたいと考えている。しかし KEK のビームラインを利用した連携課題にタグを付けるということについては問題ない。

意見：連携利用というのは必要であるのでそのような課題に対するメリットも考えてはどうか。茨城県 β 枠の場合は相補利用課題に得点を上乘せして採択されやすいようにすることを検討中である。

意見：タグを付けたうえで、申請書に相補利用の状況について記載してもらった欄を作り、共用法の施設に限定せず 自由に書いてもらったらどうか。

意見：連携を意識することで、研究戦略が明確になると思うので、そういう意味でも申請書への記載はよいと思う。

### [結果]

連携利用課題を全中性子 BL で公募すること、申請の際タグをつけること、申請書に連携利用について記載する欄を設け共用法の 3 施設以外での連携利用を考えている場合も記載してもらったことが承認された。

## 1-3. 公募・審査スケジュールについて

最後に、瀬戸 MLF 副ディビジョン長が資料 9-2 に従って 2014A 期の課題公募、審査スケジュールについて説明した。さらに、今後の J-PARC の再稼働の状況により 2013B 期に採択した課題が実施できない場合、採択した課題の取り扱いについてフレキシブルな対応の検討が必要になるとの補足説明があった。

質問：2013B 期の内定通知から 2014A 期の公募メ切まで 2 週間ぐらいしかなく、不採択になった申請

者が再申請するのには厳しいのではないかと。

回答：内定通知は10月17日の中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会が終了しないと出せない。一方、2014A期の課題を4月から実施するためには、2014A期の公募の時期を遅らせることはできない。

質問：2013B期は非常に競争が厳しい上に再申請までの期間が短いので、2013B期で不採択になった申請課題は再申請しなくても2014Aの課題として審査するという「課題審査のキャリアオーバー」はできないのか。

回答：今までキャリアオーバーをしないという方針で進めてきたし、特に共用ビームラインは文部科学省に提出している「中性子線共用施設の利用研究課題選定に関する基本的考え方」で縛りがある。しかし今回は特殊な事情であるため、まず内部で議論して、次回（10月28日）のMLF施設利用委員会/選定委員会合同委員会に提案をして審議していただきたい。また、2014A期の課題公募はキャリアオーバーがあってもなくても行うので、キャリアオーバーをする場合ビームタイムをどう割り振るかなどについても内部で議論しその結果をお知らせする。但し、次回委員会の開催より前に公募を開始することになる点については了承いただきたい。

[結果]

2013B期で不採択となった申請課題への対応を次回の合同委員会で議論するというので、2014A期のスケジュールが承認された。

#### 4. その他

##### (1) 意見交換

意見：課題申請書にタグがついていると、レフェリーにメンタルな影響が出て評価にばらつきが生じる原因になる。タグによってどういう風に誘導したいのか委員会議事録に明記し、タグを付ける目的をレフェリーガイドラインにも記載し伝えるべきである。具体的にはタグを付けた課題には申請書にその理由を書いてもらい、その内容が十分に納得できるものであるかどうかを審査していただくというのがよいのではないかと。

[結果]

この提案は承認された。

##### (2) 次回の開催「2013年10月28日（月）13：00～17：00」

#### 5. 閉 会